



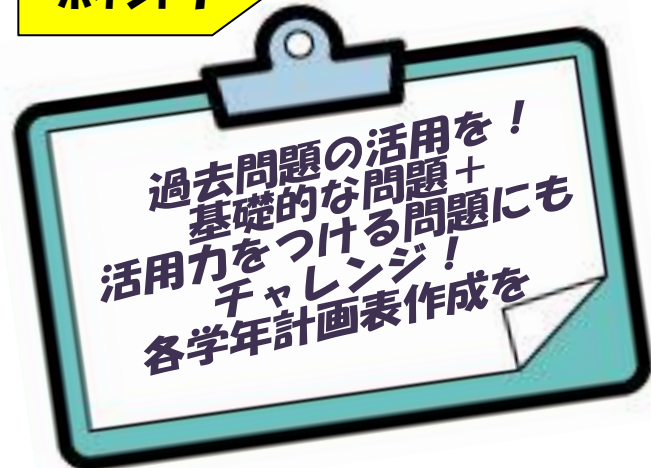
「子どもたちに確かな学力をつける学習タイムの内容となっていますか？」 ～学力と学習意欲を向上させる3つのポイント～



ポイント

- 1. 学習内容は、基本的な問題だけでなく、**活用力をつける問題**も取り入れ、計画表を作成、組織的に取り組む。
- 2. 短いスパンで検証を行い、改善した取組を実施する。(PDCAサイクルの「**チェック**」と「**アクション**」の強化を！)
- 3. 子どもたちが**主体的に取り組む工夫**や自己評価表を作成するなど**伸びを可視化**し、学習意欲向上を図る。

ポイント1

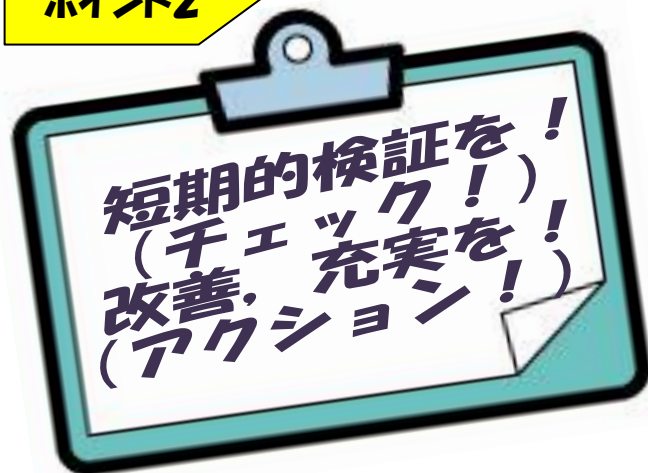


《学習タイムで過去の学力調査問題や評価問題のA問題とB問題の効果的な活用を！》

国や県の学力問題には、経年比較できる（繰り返し出題される）問題があります。その問題は、子どもたちにぜひ、力をつけてほしいというメッセージでもあります。このつけたい力をつける方法として以下のことが考えられます。

- ① 昨年末に実施された評価問題の答案の配付の際、**解説**を行い、答え直しをする。
- ② **評価問題の再テスト**をし、理解できたかを確認する。正答率が低ければ、理解できるまで徹底して指導、再テストを**繰り返し**行う。
- ③ **過去問題のA問題とB問題**を工夫した学習タイムの時間に合わせて行う。
【過去問題とは】県の基礎学力調査、全国学力学習状況調査、昨年12月に実施された評価問題、各市町教育委員会が作成したプリント、学力向上プログラム 等
- ④ 学級ごとに取り組むのではなく、全校で組織的に取り組み、系統的・継続的に実施するために、**各学年で計画表を作成**し、共有する。

ポイント2



《短期的に、国や県の過去問題や各市町教委作成の問題等で検証しよう！》

学習タイムに熱心に取り組んでいても、子どもたちに確実に力がついているのかわかりません。一生懸命に取り組んでいても方向性が違っていることもあります。そこで、確実につけたい力がついたので検証しましょう。

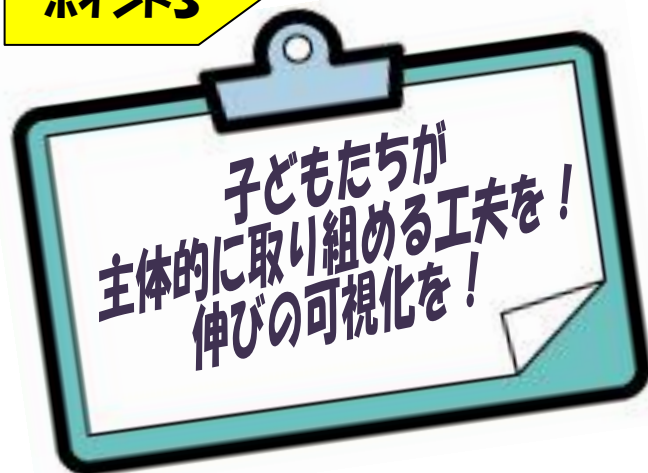
【検証する時期】(例)

- ① 1週間～2週間に1回
取り組んだ期間内に実施した問題について、学習タイムの中でテストを実施する。
- ② 1ヶ月に1回
学力調査と同じ時間、同じ問題数で授業1時間を使ってテストを実施する。

【検証と改善の繰り返し】

過去問題を活用して実施したテストの結果、正答率が上昇しているのか、どこが理解できていないのかなどをしっかりと検証する。そして、定着が図れていない部分について、これまでの取組を見直し改善・実施することを、力が定着するまで繰り返し行う必要がある。

ポイント3



《子どもたちのやる気を引き出すために、その伸びの可視化に取り組もう！》

学力の3要素とは、(1) 基礎的・基本的な知識・技能、(2) 思考力・判断力・表現力、(3) 主体的に取り組む態度です。この3つ目の主体性を伸ばすことが重要です。子どもたちに自らの伸びを実感させることができれば、子どもたち自身でどんどん学習に取り組むようになります。その一例として以下のようなことが考えられます。

【子どもたち自身に伸びを実感させる一例】

- ① 学ぶ意義「何のために学ぶのか」を考えさせ、教え、一人一人の可能性や生きる力に繋がることを意識付ける。
- ② 毎日の学習タイムで取り組んだプリントの点数や、検証として実施したテストの結果を記録できる自己評価表を用意する。
- ③ 子どもたちが、学習タイムに自ら過去問題に取り組めるように、問題を綴った冊子(問題集)と解答・解説シートを作成し、毎時間、自分のペースで取り組み、採点し間違った答えを直すことを繰り返す。
- ④ 先生が、その記録を定期的に確認し、コメントやはんこ等でがんばりを価値付け褒めたり、アドバイスをしたりして自己肯定感や効力感を味わわせる。

学校の工夫・改善を応援します！

確かな学力は「生きる力」の一つです。その力を適切につけるために今回、学校の取組を含めていくつか紹介しましたが、まだまだよい方策があると思います。ぜひ、学校で工夫・改善していただき、よい方策を発信してください。事務所だよりでも紹介していきます！

